

## 緑の相談

## Q &amp; A

Q

サボテンには、どうしてトゲがあるのでしょうか？

なぜ過酷な場所に生息するのですか？

A

サボテン属の大部分は日差しの強い、乾燥した場所(砂漠のような所)に生息しています。意外なことですが、アメリカ大陸原産なのでアメリカ大陸以外の砂漠、例えばサハラ砂漠やタクラマカン砂漠で自然にサボテンを見つけることはできません(サボテンに似た形態の多肉植物はありますが生物学的には遠いものです)。



サボテンの独特な形状は、生存環境のより厳しい場所に適応していった結果と考えられます。トゲは葉が変化したものと思われ、トゲの働きは、①外敵から身を守る。②日陰を作る。③場所の移動。④水を集める。⑤太陽光線を散乱させ、表面温度を下げる冷却効果など。ちなみにこのトゲをすべて取ってしまうと表面温度が10℃も上昇するそうです。また、サボテンの重さの96%は水分といわれるほどで、柱やうちわ、玉のような形に発達した茎や、数センチの深さに浅く広く張った根に水を貯めることができます。そして一日に消費する水分は、植物体の1/2000〜1/2500と言われており、数か月から長い場合は数年間、雨が降らなくても枯れることはありません。

寒暖差や乾燥が激しい過酷な場所は、他の植物にとって生育が厳しいということになり、植物同士の競争が少ないという利点があります。サボテンは砂漠を好んで生息したのではなく、そこで生きる術を身につけた植物ということなのです。

そんなサボテンですが、全体の31%にあたる500種が人の侵入によって、絶滅の危機に瀕していることが昨年の調査でわかりました。今回の結果により、地球上で最も絶滅が危惧される植物種に仲間入りし、そのレベルは哺乳類や鳥類より高く、サンゴの次位に位置することになるそうです。乾燥地帯の生物多様性や生態系、果実や食用に依存している地域社会にとって、広範囲に影響が出る恐れが指摘されています。



(那須野が原公園緑の相談所)

コレやってみよう！

パンジーポールを作ってみよう！

草花はプランターなどに水平に植付けることが一般的ですが、垂直の円筒状の枠に横向きに植付けてみました。360度鑑賞可能でありお客さんにも大変好評です。4月からはペゴニアポールにチャレンジしてみたいかがでしょうか。



材料（高さ1m、直径15cmのポール用）

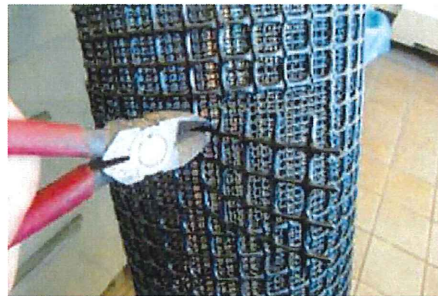
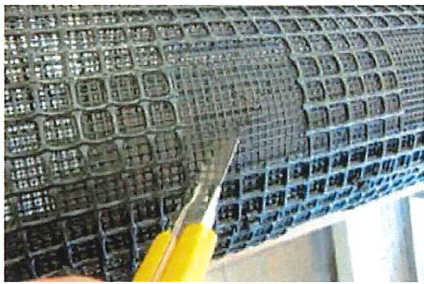
- 外枠の網 切り売りのプラスチック製の網 100cm×60cm（網目15mm□）
- 内側の網 切り売りのプラスチック製の網 100cm×60cm（鉢底網目）
- インシュロック（結束バンド） 100本くらいあるとよい
- 園芸用受け皿 1枚
- 園芸用支柱 3〜4本  
（補強のためポールの内側に入れた方がよい）

作り方

1 外枠網と内側網を丸めてインシュロックで数多く止めて基本のポールを作る。

2 植込み部、外枠網をニッパでカットする（75mmくらい、前後・左右を90度ずらしながら上部までカット）。

3 植込み部、内側網をカッターで×にカットし、中央部をハサミで少し切り込む。



4 パンジーをポットから抜き、根の部分を少し崩しビニールに細く巻いて植え込み部に差し込む。



5 パンジーの根部分が隠れるまで園芸土を入れる。



6 ④⑤を繰り返してポールの頂上まで植え込みを行うと出来上がりの状態になる。



（那須野が原公園緑の相談所）